



高校生が外国人と交流

9月2日(火)、築館高等学校で「第1回国際理解教育セミナー」が開催されました。

このセミナーは、高校生に国際的な視点やコミュニケーション能力などを身に付けてもらおうと行われたもので、今回が初開催です。当日は、国籍や文化が異なる外国人10人を講師に迎え、築館高等学校の1年生が学びを深めました。



最初は緊張した様子の生徒たちでしたが、簡単なゲームや対面授業をきっかけに会話が弾み、充実した時間を過ごしました。

レトロな街並み彩る名車

9月14日(日)、栗駒地区の六日町通り商店街で「みんなでしあわせになるまつり2025」が開催されました。

この催しは、レトロな街並みが残る六日町通り商店街に往年の名車を展示するもので、地域の恒例イベントとして定着しています。当日は、車両83台の展示の他、ボンネットバスの乗車体験、パレードなどが行われました。



来場者は、数々の名車を写真に収めた他、持ち主との交流を楽しみ、商店街には活気と笑顔があふれました。

陶芸に親しむひととき

8月30日(土)、志波姫公民館で「陶芸教室」が開催されました。

このイベントは、公益社団法人栗原法人会が主催したもので、市内の企業の他、一般の人も参加できる広域事業の一環として7年前から開催されています。当日は、陶芸家の工藤修二さん(花山座主)を講師に17人が作品づくりに挑戦。茶碗や皿、カップ、人形など個性豊かな作品を完成させました。



参加者は、満足げな表情を浮かべ、焼き上がりを心待ちにしていました。



各地区の催しを、毎月5地区ずつ紹介します。取材を希望する場合は、催しを開催する2カ月前までに、市政情報課(☎22-1126)へ連絡してください。

多彩なダンスの祭典

8月24日(日)、若柳ドリーム・パルで「ダンスフェスティバル2025」を開催しました。

当日は、市内外から15団体が参加し、モダンバレエやストリートダンスの他、よさこい、フラダンスなど、多彩なダンスを披露しました。

会場には、年に1度のイベントを待ちわびていた多くの観客が詰めかけ、満席になるほどの盛況ぶり。



出演者たちは、生き生きとした表現と笑顔で観客を魅了し、会場からは大きな拍手と歓声が送られていました。

地域の手作り文化祭

9月6日(土)から15日(月)まで、金成萩野公民館を会場に「萩野文化祭」が開催されました。

この文化祭は、地域おこし協力隊が企画し、萩野地区コミュニティ推進協議会が主催したもので、地元小・中学生の夏休み制作の他、手芸、絵画、書など約250点が展示されました。また、金成史談会の会員による「炭焼藤太と金売吉次」と題した歴史講話や、小学生による世界の虫に関する研究発表、地域のサークルによる人形劇などが披露され、文化祭を盛り上げました。



〔左から〕白鳥さん、高橋さん

台湾でプレイボール

10月24日(金)から27日(月)にかけて、台湾の嘉義市KANO棒球場で開催される「嘉義市114年諸羅山盃亞洲青少年軟式棒球邀請賽」に、築館中学校3年の白鳥隼来さん(築館坂下)と、金成小中学校9年の高橋昂さん(金成沢辺上)が出場します。

出場に当たり白鳥さんは「この経験を通して成長できるよう、最後まで全力で頑張ります」と、高橋さんは「優勝目指して、最後まで諦めず頑張ります」と意気込みを語りました。

長寿100歳 おめでとう ございます

大正、昭和、平成、令和。激動の4つの時代を駆け抜け、思いを紡いで1世紀。

100歳の誕生日を迎えた2人を紹介します。



ちば かのこ
千葉 金子さん
(築館駅前)

茶道や社交ダンスなど、さまざまな趣味を楽しんできた千葉さん。

現在は、入所する高齢者福祉施設で友人とのおしゃべりを楽しみながら、日々元気に過ごしています。



すがわら
菅原 かつみさん
(栗駒三丁)

95歳まで畑仕事に精を出し、家族のためにおいしい野菜を作り続けてきた菅原さん。

2人の孫の子守りをしたことや、ひ孫と暮らしたことは、今も忘れられない大切な思い出です。



稽古の成果を発揮

10月5日(日)に東京都の東京武道館で開催される「第63回全国防具付空手道選手権大会」に、市内から8人の選手が出場します。出場する選手を代表し、佐々木秀大さんは「個人組手の部や団体戦でもベストを尽くし頑張りたい」と意気込みを語り、各選手は闘志を燃やしています。

〔出場選手〕白鳥圭悟さん(築館留場北)、鈴木琥太郎さん(高清水9区)、黒澤涼太さん(高清水10区)、藤原麗さん(築館本木)、及川纏さん(志波姫宮中)、徳江大輝さん(高清水9区)、笹原由衣さん(高清水8区)、佐々木秀大さん(高清水9区)

高齢者叙勲

国や公共に対し功労があり、88歳に達した松田さんに勲章が授与されました。

瑞宝双光章(教育功勞)



元一迫町立一迫中学校校長
まつだ せつろう
松田 節郎さん
(一迫荒町)

受章に当たり松田さんは「私は教育の中で信という言葉が好きで、相手を信じること、子どもたちを信じること、これが教育の原点だと思っています。子どもたち、周りの人々、特に家族にお礼を言いたいです」と述べられました。